

布されます。そして、  
雨がふれば、どの種子  
も同じように芽を出す  
ことができます。

しかし、よく踏まれ  
る道路の中央部では、  
オオアレチノギクやヒ  
メジョオンなどの路傍  
植物は、踏まれると大

きくなれず、ついには 図一4 路上雑草の植生模式図

死んでしまいます。そして、踏まれても生育するオオバコやニワホコリなどだけ  
が残り、路上植物群落（オオバコ群落）を形成するのです。

道路や校庭などで、たえず踏まれるということは、植物にとっては、きわめて  
きびしい生育条件で、植物の地上部は機械的な障害をうけ、土壤は固まってしまいます。  
固まれば空気の供給も悪くなってしまって、植物の生育が困難になってきます。

だから、単に茎や葉が踏みつけに強いばかりだけでなく、種子が酸素のないところでも発芽できなければなりません。したがってオオバコ群落を構成している種類はきわめて少なく、せいぜい5～10種くらいです。（図一4）

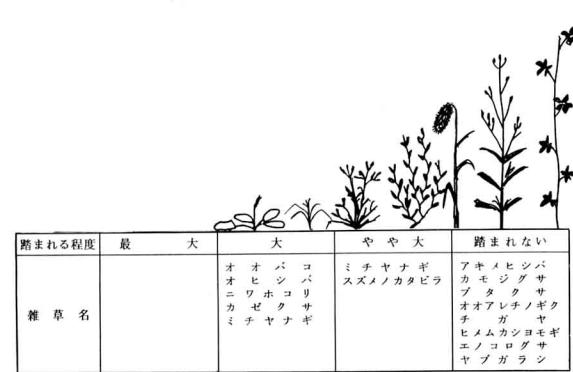
つぎに、踏まれた程度で、雑草はどのように変わるのか、それぞの植物  
についても調べてみましょう。

踏みつけると雑草は茎のどこから折れるのか、1度で生育が不可能になるのか  
何回ぐらいでそうなるのか、また、葉のいたみかたはどうなのかを調べます。

さらに、踏まれた後の回復のようすはどうかといったようなことにも注意して  
野外観察を続けましょう。

図一5を例にとると、道路の中央では、  
茎の倒れが大きく、高さも低くなります。  
道路の両端になるにしたがって、倒れが  
少なく、高さも高くなっていきます。

観察したことは、その場で必ずメモし  
たり、スケッチしたりするようにしまし  
ょう。



図一5 オヒンバ（右が道路の中央）